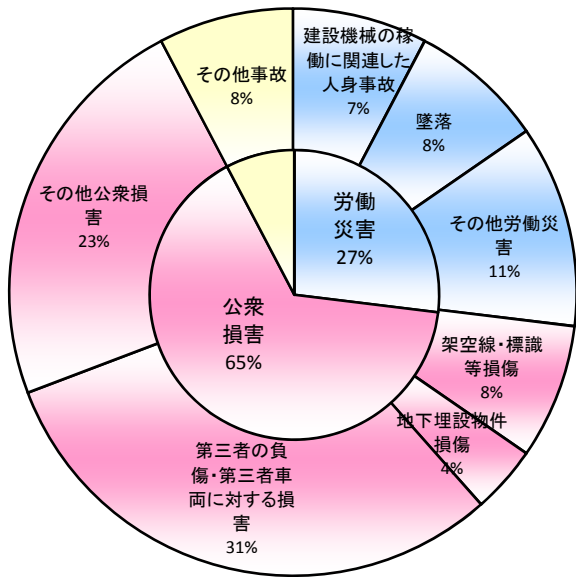


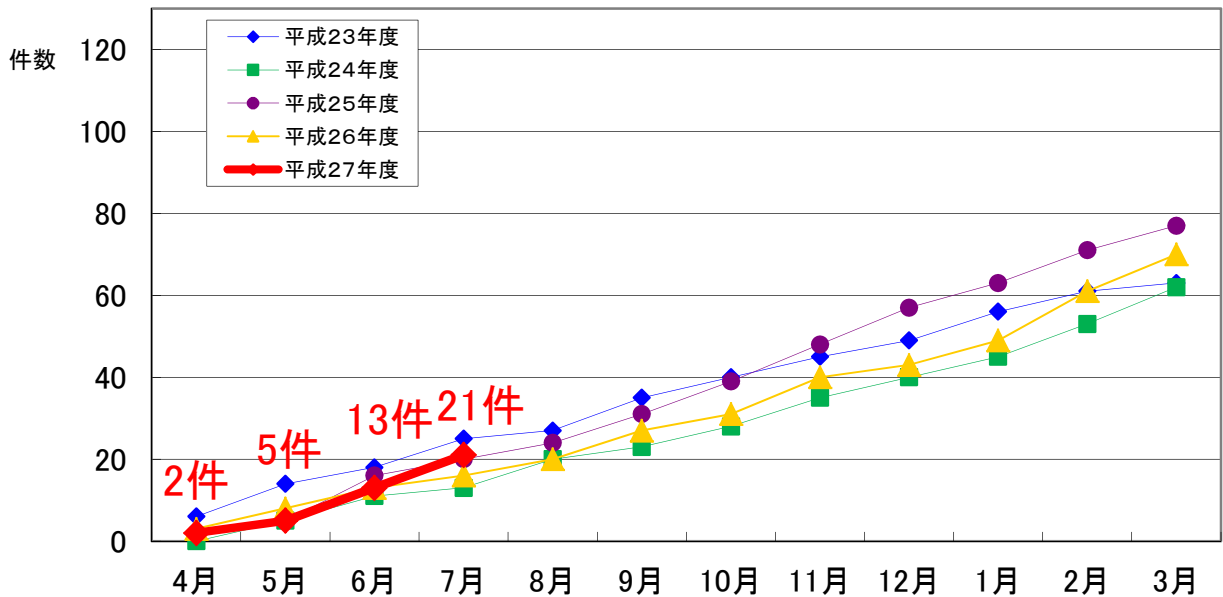
●平成27年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H25	H26	H27	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	6	4	2	12
	部材の加工作業等により自らを負傷	5	2	0	7
	資機材等の落下や下敷きで負傷	6	4	0	10
	墜落	6	6	2	14
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	1	0	0	1
	その他労働災害	6	14	3	23
小計		30	30	7	67
公衆損害	架空線・標識等損傷	5	8	2	15
	地下埋設物件損傷	12	7	1	20
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	16	21	8	45
	その他公衆損害	10	8	6	24
	小計	43	44	17	104
その他事故		4	1	2	7
計		77	75	26	178

● H27年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)

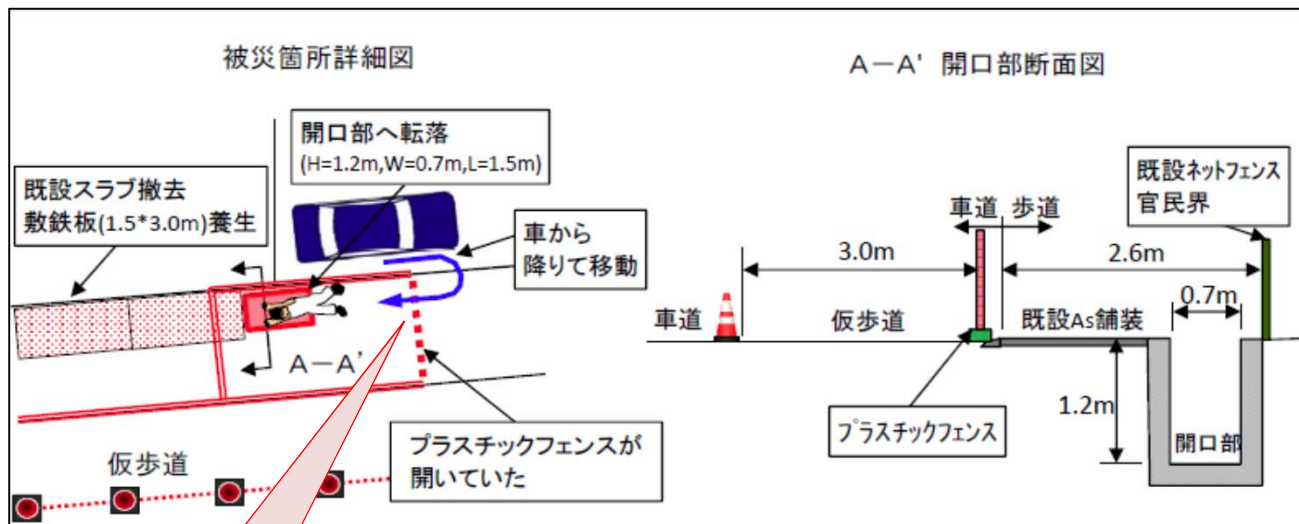


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成23年度 累計(月毎)	0件(0件)	5件(5件)	11件(6件)	13件(2件)	20件(7件)	23件(3件)	28件(5件)	35件(7件)	40件(5件)	45件(5件)	53件(8件)	62件(9件)
平成24年度 累計(月毎)	2件(2件)	6件(4件)	8件(2件)	18件(10件)	23件(5件)	31件(8件)	42件(11件)	50件(8件)	63件(13件)	66件(3件)	67件(1件)	74件(7件)
平成25年度 累計(月毎)	2件(2件)	5件(3件)	16件(11件)	20件(4件)	24件(4件)	31件(7件)	39件(8件)	48件(9件)	57件(9件)	63件(6件)	71件(8件)	77件(6件)
平成26年度 累計(月毎)	3件(3件)	8件(5件)	13件(5件)	16件(3件)	20件(4件)	27件(7件)	31件(4件)	40件(9件)	43件(3件)	49件(6件)	61件(12件)	70件(9件)
平成27年度 累計(月毎)	2件(2件)	5件(3件)	13件(8件)	21件(8件)								

■問合せ先:企画部 技術調査課 遠藤・古賀 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 27 年 7 月 13 日 (月) 22 時 10 分			
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	35	第三者	右足小指骨折
事故概要	歩道での道路側溝の工事に伴う開口部に沿道のファミレス利用者が転落し、右第3・4・5足趾中足骨骨折			
	公衆損害-第三者の負傷・第三者車両に対する損害			

事故発生状況



プラスチックフェンスを開放したままとなっていた



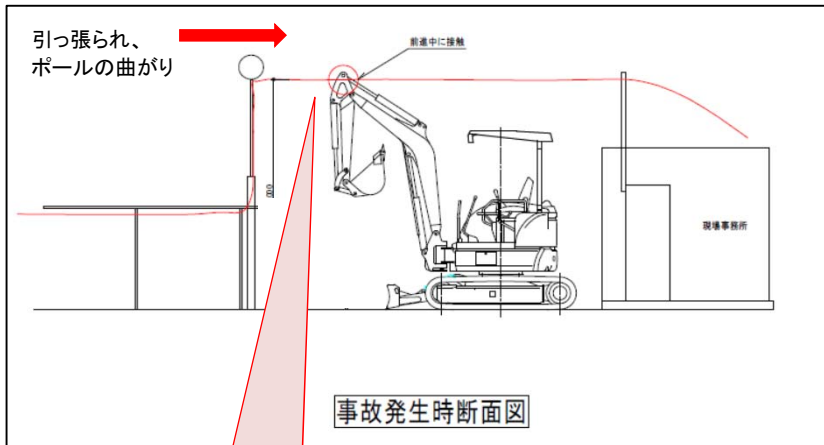
- ・構造物撤去作業にあたり、重機を重機仮置場から作業箇所へ移動
- ・作業員がプラスチックフェンスを戻さず開放状態にしていた。
- ・融雪設備のパネルを設置するため既設の構造物撤去を実施。
- ・被災者が規制区間のガスト臨時駐車場(予備)に車両誘導され徒歩で店舗に向かう途中フェンス開放部から進入し暗渠開口部に転落し被災した。
- ・被災箇所(重機仮置場)は構造物撤去作業がすでに完了していた箇所であり、水路は一部暗渠開口部がある状態であり、第三者が立入らないようプラスチックフェンスで締切っていたが、重機移動の際開放されたままであった。

【事故発生原因】
 ・第三者等への安全対策不足
 など

【事故防止のポイント】
 ・作業帯内への第三者進入防止対策を実施する。
 ・交通誘導員が誘導を行う

発生日時	平成 27 年 7 月 15 日 (水) 17 時 50 分			
工事情報	河川系事務所 電気設備工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	屋外灯の損傷(ポールへの曲がり・電球カバーの損傷)
事故概要	現場事務所前でバックホウを移動中、請負者用の仮設電話線にアームが接触、電話線が引っ張られ、支時に使用していた屋外灯の損傷(ポールへの曲がり・電球カバーの損傷) 公衆損害—架空線・標識等損傷			

事故発生状況



アームを上げたまま移動し、接触。

- ・作業終了後、残土置き場へバックホウ(0.25m³)を移動中、現場事務所前の通路を横断している請負者用仮設電話線(架空GL+約4m)にバックホーのアームが接触。
- ・仮設電話線の支持に屋外灯のポールを使用していたため、仮設電話線がバックホーに引っ張られ、屋外灯が損傷(ポールへの曲がり、電球カバー一部が落下し破損)した。
- ・のぼり・三角旗等の安全対策は行っていなかった。
- ・バックホーのアームをあげたままであった。

【事故発生原因】

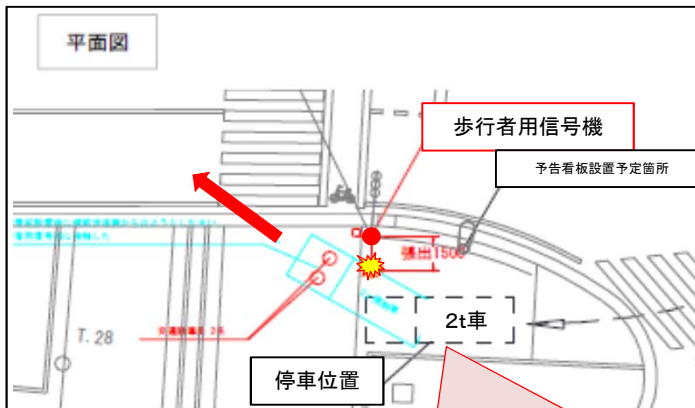
- ・架空線等に対する注意喚起不足
- ・バックホーのアームを上げたまま移動など

【事故防止のポイント】

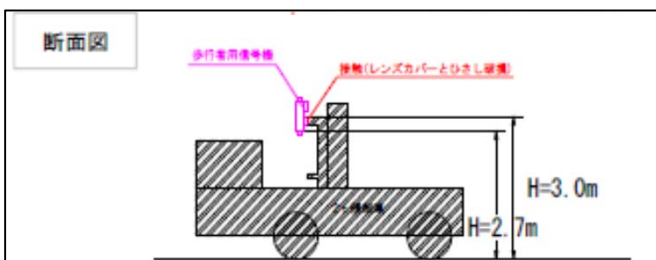
- ・のぼり・三角旗等の注意喚起措置を実施する
- ・アームは下げて移動するように指導等を徹底する など

発生日時	平成 27 年 7 月 17 日 (金) 20 時 45 分			
工事情報	道路系事務所 As舗装工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	歩行者用信号機のレンズカバー・ひさし損傷
事故概要	予告看板設置作業時に規制車の電光表示板と歩行者用信号機が接触し、信号機のレンズカバー・カバーが損傷したもの。 公衆損害-その他公衆損害事故			

事故発生状況



停車し、予告看板を設置後、横断歩道側より出ようとした



・2tトラックにて予告看板(速度落とせ)を設置時に歩道部に進入した際、歩行者用信号機に接触。(車両進入区域外に進入。)

【事故発生原因】

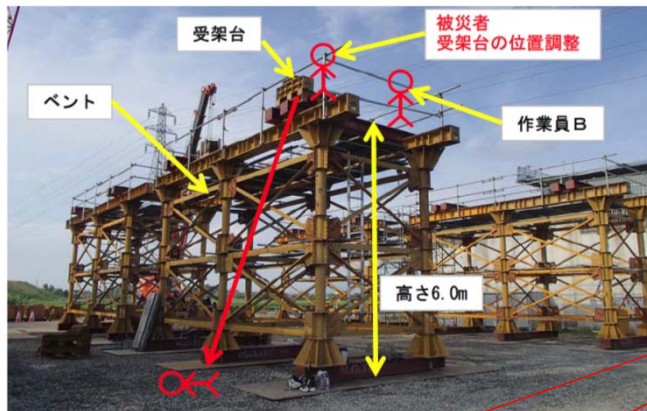
- ・近接構造物に対しての注意喚起不足
- など

【事故防止のポイント】

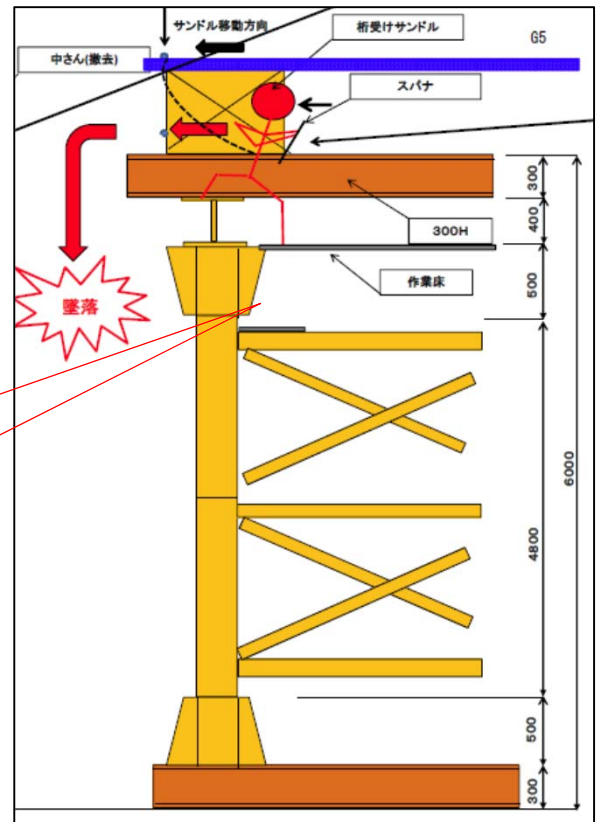
- ・既設近接構造物の事前確認を行い、注意喚起を実施する。
- ・車両進入禁止区域に入らないように、通行ルートを確認する。

発生日時	平成 27 年 7 月 21 日 (火) 15 時 40 分			
工事情報	道路系事務所 橋梁上部工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	61	とび	腰骨、胸骨、肋骨骨折等(全治2ヶ月)
事故概要	作業員がベント上において翌日の桁架設の段取り(桁受け架台の調整等)を行っていたところ、手摺りの間より6m下の地面へ墜落し、負傷したものの。			
	労働災害-墜落			

事故発生状況



サンドルとボルト孔を合わせようと、ボルト孔にスパナを挿入し調整していた



- ・被災した作業員はベント上で桁架設段取りを行うため、桁受け架台のサンドル位置調整を行っていた。
- ・メガネスパナをサンドルのボルト孔に差し込んでサンドルを動かそうとした際に反動で約6m落下し、負傷した。
- ・現場ベント上のサンドル足場の幅が図面通りにならず、中さんがサンドルと干渉するため一時的に外した。(下請けより元請け職員に指摘したが、図面の修正を怠ったため。)
- ・上記より、安全帯を装着していたが、使用していなかった。

【事故発生原因】

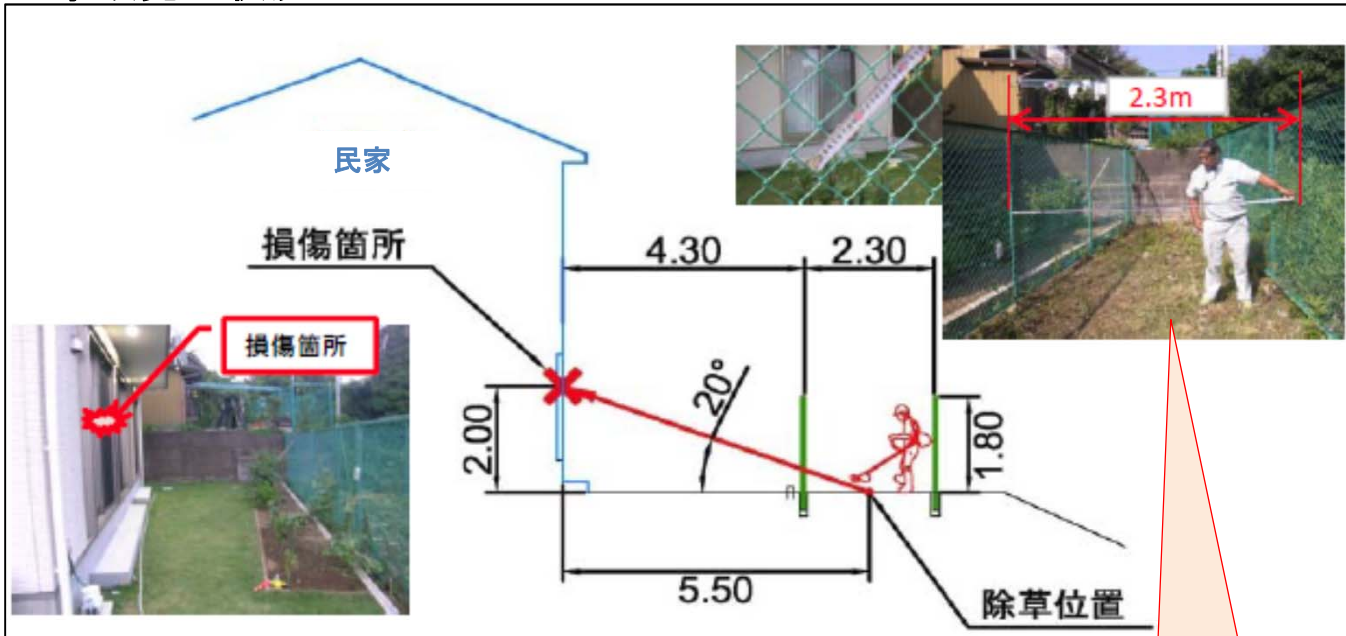
- ・安全帯を使用していない
- ・ など

【事故防止のポイント】

- ・高所作業において安全帯の使用を徹底させる
- ・構造変更に伴う安全設備の変更指示を行うなど

発生日時	平成 27 年 7 月 31 日 (金) 15 時 45 分			
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	民家の窓ガラス損傷
事故概要	管内管理工事において用地の除草作業中に飛び石が発生し、民家の窓ガラスを損傷させたもの。 公衆損害—その他公衆損害事故			

事故発生状況



防護ネット等を使用していない

- ・管内管理工事において用地の除草作業中に飛び石が発生し、民家の窓ガラスを損傷させたもの。
- ・施工個所が狭いので防護ネットを持つ作業員が入って草刈機を使用すると危険だと判断し防護ネットの使用を怠った。

【事故発生原因】
 ・飛び石防護措置を実施せずに作業を行った。
 など

【事故防止のポイント】
 ・除草作業を行う際は、飛び石防護措置(ネットなど)を必ず実施する。
 など